

平成21年度遺跡速報展 前期展  
(報告書刊行編)

# いにしへのツギハメ'09



杉田池田遺跡 弥生時代後期後半の壺棺墓

かみごう

## 上郷遺跡 (新居浜市郷)

上郷遺跡は、新居浜東部山地北麓に開けた小さな開析谷に位置しており、調査の結果、縄文時代から中世の遺構・遺物が確認されました。

縄文時代では、突帯文土器と呼ばれる縄文時代晩期中頃の土坑や土器棺墓が発見されました。これらの資料は新居浜市域で初めて発見されたもので、縄文時代晩期の土器編年や葬制を考えるうえで重要な資料といえます。また、古墳時代では新発見の円墳を確認しました。墳丘は大部分が破壊され遺存していませんでしたが、石室は非常に残りが良く、石室内部の構造や副葬品の様子などが明らかになっています。中世では、室町時代(14～15世紀頃)の集落跡を確認しました。この集落跡は、隣接する丘陵地に築かれた中世山城(岡崎城)と時期的にも近く、岡崎城あるいはその城主とされる藤田氏との関連性が考えられます。



縄文時代晩期中頃の土器棺墓

いけのうち

## 池の内遺跡 (西条市飯岡)

池の内遺跡では、主に奈良時代の遺構を発見しました。これらの遺構には、掘立柱建物 28 棟・住居 2 棟・居住区の区画として整備された溝 1 条などがあり、このうち掘立柱建物は比較的規模の大きなものであることがわかりました。22 年前にも池の内遺跡では調査が行われており、この時にも 9 棟の掘立柱建物や識字階層の存在を示す円面硯が見つかっており今回の調査成果と併せて考えると、この一帯に残された遺構は官衙関連施設であった可能性を示しています。



古代の遺構検出状況

さらに縄文時代晩期の遺構も確認されており、これらには土器や石器を捨てた土抗や、祭祀に使われたと考えられる石棒が埋納された土坑が見つかっています。調査終了後にこれら土抗から出土した炭化物を分析したところ、土器や石器類は約 2,800 年前に埋められたものであることがわかりました。さらに土抗から出土した植物遺体の鑑定では、縄文時代には海や川沿いに分布するヤブツバキが存在したこともわかりました。

いっほんまつ

## 一本松遺跡 (今治市山口)

一本松遺跡は、朝倉盆地北部を流れる多伎川によって作られた、扇状地扇端部の緩斜面にあります。発掘調査の結果、弥生時代中期および古墳時代中期に、ムラが存在したことがわかりました。

弥生時代の遺構は竪穴住居 1 棟と土坑が見つかっています。竪穴住居は直径 8m ほどの円形をしており、中央には炉の跡も検出されました。住居周辺の土坑からは大量の弥生土器が出土し、まとめて捨てられたものと思われます。さらに、それらの弥生土器に混じって分銅型土製品も出土しました。分銅型土製品は当時の祭りの道具で、使い終わった後、捨てられたものと考えられます。また柱穴の中から、県内では例の少ない打製石剣も出土しています。



捨てられた弥生土器

古墳時代の遺構は、竪穴住居 6 棟、掘立柱建物 5 棟が見つかりました。古墳時代の竪穴住居は四角形で 4 本の柱で屋根を支える様子が復元できます。住居同士の重なりや出土した土器から考えると 4 回の建て替えが想定できますが、どれも 5 世紀後半頃と考えられ、頻繁に家が建てられていた様子がわかります。この年代は付近の一本松古墳が作られた時期とも近く、古墳と何か関係のあったムラであると考えられることもできます。

## 国分向遺跡(今治市国分)

国分向遺跡は、今治市南部の唐子台丘陵山裾の緩やかな斜面に立地する古代から中世にかけての集落遺跡です。遺跡の北 250m には古代の国分寺塔跡が残っています。古代の今治平野は国府が置かれ、伊予国の政治の中心地であったと考えられています。国府が今治平野のどこにあったかはまだわかりませんが、頓田川右岸に国分寺や国分尼寺が建立されていることから、国府も国分寺からそう遠くない場所に置かれていたと考えられます。



瓦を再利用した井戸

調査の結果、竪穴住居 1 棟・土坑 13 基・溝 9 条・井戸 2 基などの遺構を検出し、主に古代から中世にかけての遺物が出土しました。

発見された竪穴住居は 2.7m 四方の小さなもので、10 世紀頃の庶民の家と考えられ、国分向遺跡はごく一般的な小さな村の跡だと考えられます。しかしながら、灰釉陶器や緑釉陶器など庶民の村には似つかわしくない器や、皇朝十二銭の一つである「乾元大寶」が出土していることから、国分寺と何らかの関係があったのかも知れません。

発見された井戸のひとつには、国分寺で不要となった瓦が井戸側として用いられており、また、井戸以外からもたくさん瓦が出土しています。それらの瓦は大きささまざま、時代とともに瓦も姿形を変えて行ったことがわかります。同時に、瓦の変化は瓦が葺かれていた建物の規模の変化を示していると考えられることから、国分寺の歴史の一端をもの語る貴重な資料とすることができます。

## 国分壺町地遺跡(今治市国分)

国分壺町地遺跡は、今治市南部の唐子台丘陵から南西へのびる小さな谷に立地する弥生時代の遺跡です。

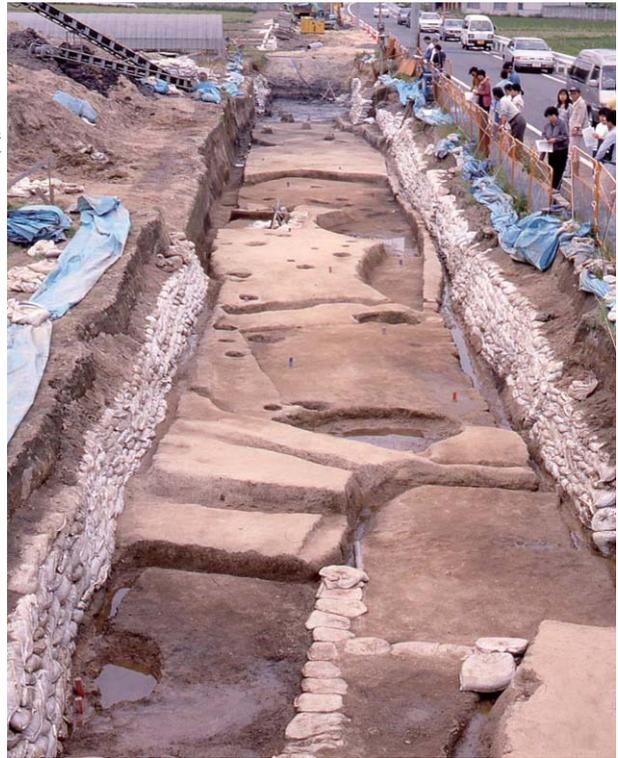
県道の拡幅に伴う 3m×16m のごく狭い範囲の発掘調査でしたが、弥生土器や石器などの遺物が 4,000 点近くも出土しました。土器や石器は小高い場所から谷へ向かって捨てられたもので、この場所はいわば集落のゴミ捨て場のような場所だったと考えられます。

弥生時代は愛媛県では紀元前 4 世紀頃に始まって、紀元後 2 世紀頃まで続いたと考えられています。今回見つかった遺物は弥生時代の中でも最も古い弥生時代前期のものです。弥生時代は大陸から日本へ水田稲作農耕が伝わった時代で、縄文時代までの狩猟・採集で食料を得る生活から、農作物を栽培することによって計画的に食料を得る生活に大きく変わっていった時代です。最初の頃に作られた水田は、現代の水田のような面積の広いものではなく、少ない土木作業で造れる自然の地形を生かした小さな水田だと考えられています。国分壺町地遺跡に住んでいた当時の人々も、水が豊富な唐子台丘陵の谷あいには小さな水田を作って稲を育てていたのかも知れません。

そまだいけだ

## 杣田池田遺跡 (今治市杣田)

杣田池田遺跡は今治市の北西部、近見山丘陵の西側を流れる杣田川によって形成された谷部に位置しています。調査は平成7年と平成12～13年度の2度行われており、今回の報告書はその成果をまとめたものです。本遺跡は弥生時代後期から古墳時代初頭及び中世の集落遺跡です。特に弥生時代後期から古墳時代初頭の集落においては、14棟の竪穴住居のほか、集落の北辺では土器棺墓が、南辺では多量の土器を廃棄した土器廃棄遺構が検出され、今治平野における当時期の集落の様相を明らかにする良好な資料を得ることができました。また土器廃棄遺構から出土した土器群は今治平野の土器編年の指標となりうるものです。また、包含層資料ではありますが、縄文時代中期の北白川C式土器が出土しており、杣田集落の緒源が縄文時代中期まで遡るものと考えられます。



弥生時代後期後半の竪穴住居

いしてむらまえ

## 石手村前遺跡 (松山市石手)

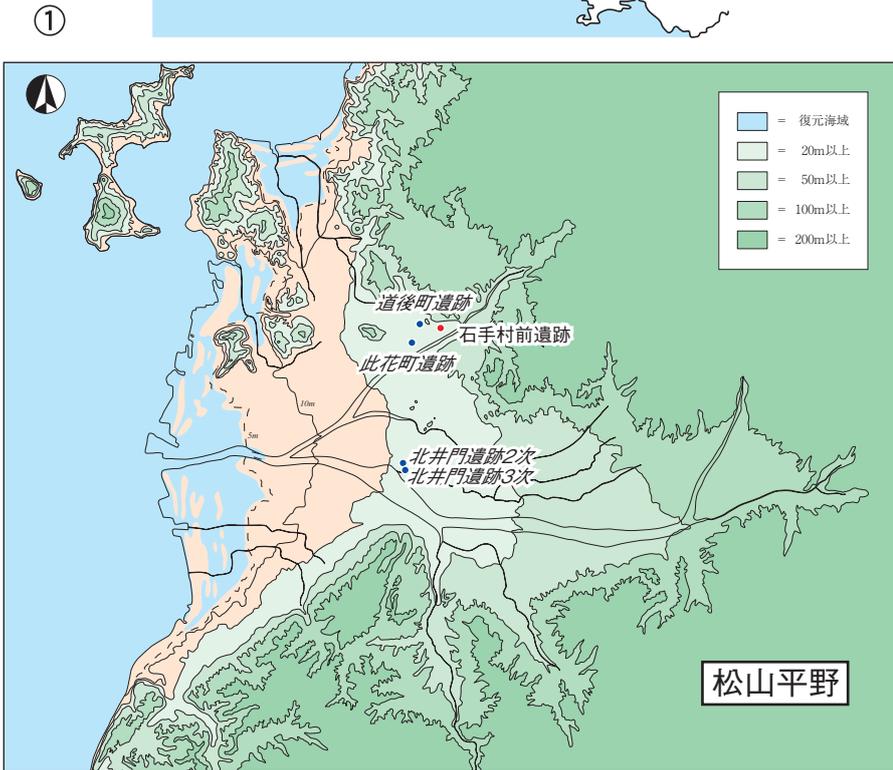
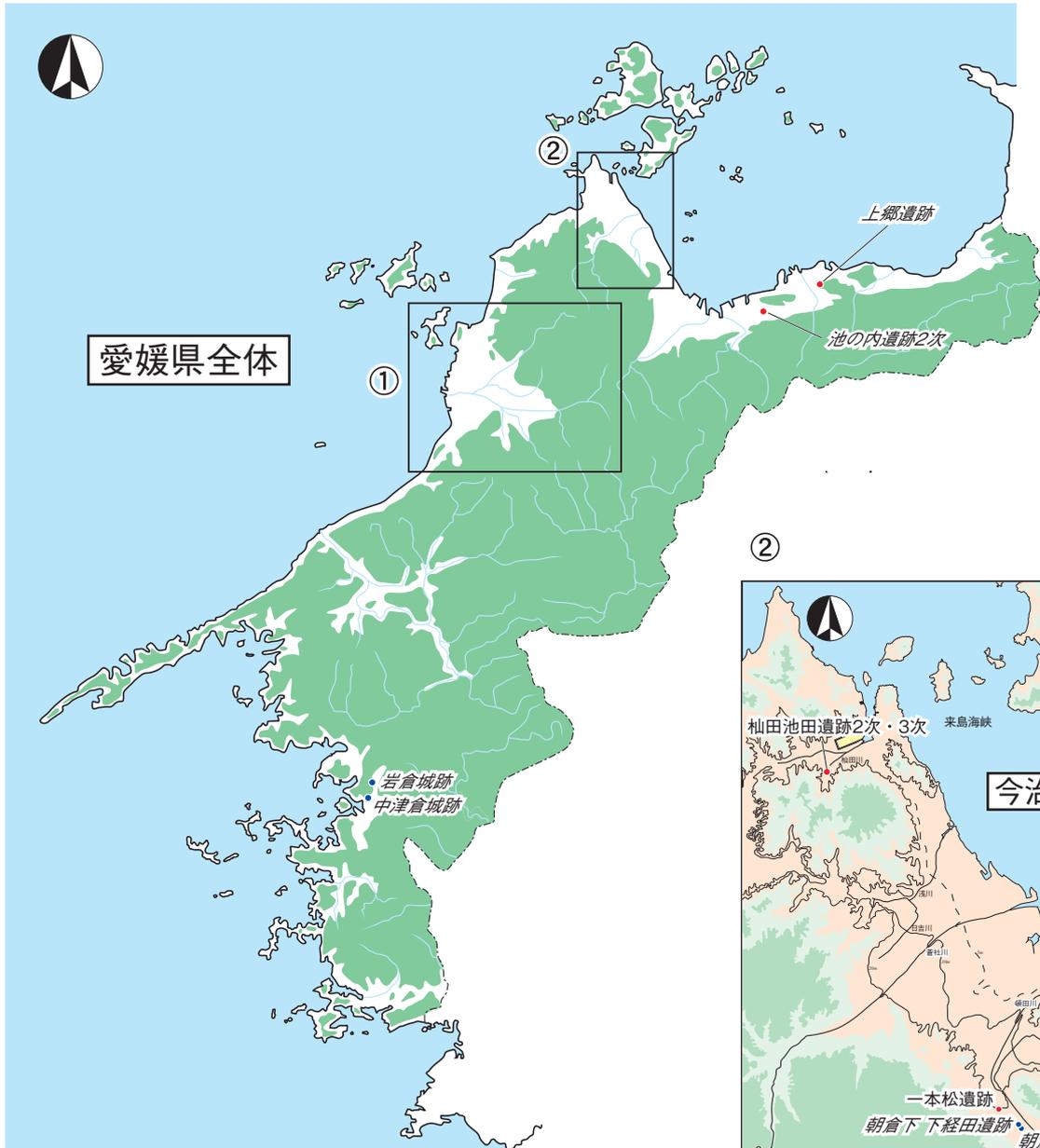
石手村前遺跡は、松山市北部の石手川扇状地に立地する古代から中世にかけての遺跡です。遺跡の西には道後湯築城跡が、東には石手寺があって、この付近一帯は中世伊予国の政治・経済・宗教の中心地であったと考えられます。調査の結果、土坑7基、溝1条、自然流路1条、柱穴115を検出し、縄文時代から中世にかけての遺物が出土しました。

調査範囲の西半分は昔の川の跡でした。川の中からは、古代の緑釉陶器や赤色塗彩土師器や中国からの輸入品である白磁や青磁などの中世の遺物が出土しました。こうした器は、当時一般庶民がなかなか手にすることができませんでした。この付近には庶民ではない階層の人々が住んでいたと考えられます。

遺跡のすぐ東にある石手寺は728年に創建したと伝えられることから、石手寺との関係をもった人々が近くに住んでいた可能性も考えられます。



中世の遺構検出状況



平成21年度遺跡速報展

いにしへのえひめ'09

展示遺跡位置図

凡例

- 前期(報告書編)で展示する遺跡
- 後期(発掘調査編)で展示する遺跡

※この松山平野の地形図は、平井幸弘氏の見解を参考に作成しました。

## 前期展 遺跡年表

紀元前 3000 年前		縄文時代	● 上郷遺跡 ● 池の内遺跡
紀元前 500~700 年前		弥生時代	● 国分壺町地遺跡 ● 一本松遺跡 ● 杣田池田遺跡
紀元 1 年頃			
250 年頃		古墳時代	● 一本松遺跡 ● 上郷遺跡
710 年	古代	奈良時代	● 池の内遺跡
794 年		平安時代	● 国分向遺跡
1185 年		鎌倉時代	● 石手村前遺跡
1336 年	中世	室町時代	● 上郷遺跡
		戦国時代	
1603 年	近世	江戸時代	